

	「障害者の住まい方に関する調査」結果がまとまりました
公開HP	http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/tokei/shogai/290404sumaikata.html
<p>区は、「障害のある方などの住まい方に関する調査」の結果を公表した。</p> <p>この調査は、障害者が地域で安心して生活するためのニーズを把握するために実施したもので、区内在住の障害のある方を対象に、昨年9月から10月にかけて実施。</p> <p>希望する住まい方については、全ての障害において、概ね家族との同居や一人暮らしを希望している割合が高いという結果だった。</p> <p>調査結果を踏まえ、区では、在宅生活の支援の強化とともに、中・軽度、重度の障害者グループホームの増設に取り組む。</p>	

【調査概要】

期 間：平成28年9月6日～10月17日にかけて実施

対 象：区内在住の障害のある方 8,638人

回答数：3,458人(回答率40%)

(知的障害959人、精神障害739人、身体障害1,009人、難病患者751人)

調査内容：家族構成や収入、将来の希望する住まい方、地域で生活するときに困ったこと、グループホームの入居条件など

1. 回答者の現在の居住状況および就労状況

(1) 知的障害者

- ・両親との同居の割合(64.8%)が高く、介助者が母である割合(77.6%)が高い。
- ・仕事の形態は、福祉的就労(58.6%)が最も多い。
- ・障害福祉サービスの利用状況(64%)が他の障害に比べて高い。

(2) 精神障害者

- ・両親との同居、ひとり親家庭、一人暮らしなど住まい方の状況は多様。
- ・仕事の形態は、非正規社員(職員)(40.3%)が最も多い。

(3) 身体障害者・難病患者

- ・配偶者との同居の割合が高い。
- ・仕事の形態は、正規社員(職員)が最も多い。

2. 住まい方の希望の傾向(第1希望)

(1) 知的障害者

- ・家族と一緒に暮らしたい割合が5年後67.9%、10年後57.2%、20年後35.9%と最も多い。
- ・グループホームを希望する割合が10年後20.5%、20年後30.5%

(2) 精神障害者

- ・家族と一緒に暮らしたい割合が5年後56.9%、10年後53.3%、20年後46.3%と最も多い。
- ・第2位は一人暮らしを希望する割合が5年後28.7%、10年後27.6%、20年後24.5%。
- ・グループホームを希望する割合は5年後6.2%、10年後8.1%、20年後10.6%であった。

(3) 身体障害者・難病患者

- ・5年後から20年後まで家族と一緒に暮らしたい割合が50～70%と最も多い。
- ・第2位は一人暮らしを希望する割合が10～20%
- ・グループホームの希望は5年後から20年後まで3～6%であった。

3. 地域で生活（一人暮らしまたは家族と同居）するための希望等

(1) 知的障害者

- ・居宅介護・移動支援サービスの充実、相談相手を希望する回答が多い。
- ・地域で生活するときに困ったことは、「契約手続きが分からない」「保証人がいない」と回答した割合が高い。
- ・住まいに関する意見、要望は、「グループホーム等施設の充実」「近隣の理解」「見守り体制の充実」の回答が多い。

(2) 精神障害者

- ・居宅介護サービスの充実、相談相手、経済的支援を希望する回答が多い。
- ・地域で生活するときに困ったことは、「契約手続きがわからない」「保証人がいない」と回答した割合が高い。
- ・住まいに関する意見、要望は、「住宅支援」「経済支援」「住宅設備の充実」の回答が多い。

(3) 身体障害者・難病患者

- ・居宅介護の充実、経済的支援、見守りサービスを希望する回答が多い。
- ・地域で生活するときに困ったことは、「バリアフリー対応の物件がない」と回答した割合が高い。
- ・住まいに関する意見、要望は、「バリアフリー対応設備の充実」「経済支援」「住宅支援」の回答が多い。